

2023 年度事業報告

当協会は演劇の普及と演劇に関する助成によって、文化の向上に寄与することを目的として活動する助成事業（演劇関係者への助成金交付、海外研修、脚本家育成への助成）、普及事業（半額観劇会、演劇に関する講座開催）、調査事業、公益諸事業を行っています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020 年度から 2022 年度まで一部の事業が中止に追いやられましたが、2023 年度はこれらの事業の更なる公益性を図り、全ての事業に安全性を確認し取り組みました。

I 助成事業

(1) 演劇関係者への助成金交付

演劇興行及び演劇製作に寄与した団体または個人の功績を讃へ表彰する助成金交付事業は、内外の推薦を募り外部委員を含めた選考委員会が審査選考し、候補者を決定。常務理事に報告、審査の上会長に答申し、2023 年度は下記の 5 名が承認されました。授賞式は 2 月 19 日（月）、東京プリンスホテルで開催しました定時理事会終了後、理事会出席の理事、監事、委員会出席者立ち合いの下、安孫子会長より 5 名の授賞者に賞状と助成金を贈呈しました。

(受賞者と授賞理由)

山崎由美子氏（ヤマザキ ユミコ） 1961 年 5 月 62 歳

歌舞伎子役の指導者

1987 年松竹歌劇団退団後、歌舞伎の子役育成、指導を行っていた音羽菊七氏（オトワ キクナナ）の助手となり師事を受ける。2005 年音羽菊七氏逝去後、歌舞伎子役の指導者を引き継ぐ。伝統芸能である歌舞伎の子役的重要性、未成年者ゆえ多くの制約、制限がある中での子役の指導は、山崎氏の培われた努力と経験が舞台成果に結び付けている。また 2014 年 4 月に開校した「こども歌舞伎スクール 寺子屋」では、多くの歌舞伎子役を輩出する一翼を担っている。山崎氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

山田和也氏（ヤマダ カズヤ）1961年12月生まれ 63歳

演出家

1984年東宝株式会社演劇部に所属。帝国劇場、東京宝塚劇場、芸術座等で演出部のキャリアをスタート。森繁久彌主演舞台の裏方として研鑽を重ね、1995年東京サンシャイン・ボーイズ公演「君となら」（パルコ劇場）で演出家としてデビュー。その後「サウンド・オブ・ミュージック」「ラ・カージュ・オ・フォーール」「天使にラブソングを」等数多くのミュージカル作品を手掛けるなど、今日のミュージカルブームの牽引役となる。大学での講義を行う等、後進の指導にも意識を傾けている。山田氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

寺坂 泰則氏（テラサカ ヤスノリ） 1958年10月生まれ 64歳

大道具製作

1987年明治座舞台株式会社入社。以来舞台大道具製作を担当。劇場自前の大道具として時間や経費等の制約がある中、歌舞伎からミュージカルまで幅広い公演に携わる。美術家の要望を劇場独自の舞台機構を熟知した観点で、クオリティーの高い大道具製作を心掛けている。1990年北松戸に新工場設立に至っては、計画段階から参入し大きな貢献を果たした。

2023年明治座創業150年を向かえ、寺坂氏のこれまでの功績を高く評価するとともに、今後更なる活躍を期待しての受賞。

前田清実氏（マエダ キヨミ） 本名井上清美 1957年4月生まれ 66歳

振付家

1980年ジャズダンスの名倉加代子氏に師事。1990年より振付家としてデビュー。ミュージカル、ストレートプレイ、音楽劇等と、手掛ける作品のジャンルは幅広く、劇場の大小を問わず自在に空間を操る手腕は、目を見張るものがある。代表作は宝塚版「エリザベト」、スーパー歌舞伎「新・三国志」、ミュージカル「モーツァルト!」、「マイ・フェア・レディ」等々。音楽大学でのダンスコースの創設にも関わるなど振付、ダンスの面から演劇・ミュージカルの発展に力を注がれている。前田氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

竹柴徳太郎氏（タケシバ トクタロウ）本名熊谷徳太郎 1950年4月生まれ 73歳
歌舞伎 狂言作者

1973年狂言作者部屋に入門。竹柴金作氏（タケシバ キンサク）に師事。翌年十七世中村勘三郎付になる。以降中村屋を中心に歌舞伎公演全般を担当する。狂言作者とは、舞台進行の責任者、上演台本の作成や修正、附帳・書き抜き等の作成。脇役の配役。プロンプター等々、多岐に亘る任を長年にわたり担い、現在も第一線で活躍されている。伝統文化の継承、後進の指導育成にも積極的に関わり、歌舞伎界の発展継承に貢献している。竹柴氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

（2）海外研修への助成

1989年に発足しました海外研修は、【研修者が欧米の演劇と文化に直接肌に触れることで大きな実績となる】との目的で2019年度までで計29回実施し、研修参加者は延べ551名となりました。2020年度から2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を取り止めましたが、2023年度は参加者の安全を見極めながら事業を取り組みました。2023年度は10名の参加を得、事業開始以来30回、延べ561名の参加数となりました。

2023年度参加者

高橋浩介、柴原一公、下井喜之、石崎論生、青木航、岩井東洋、
伊沢忍、渡邊俊也、野中正俊、西中治朗、 計10名

（3）脚本家育成への助成（脚本募集及び脚本家養成講座）

演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要と考えられます。その観点を踏まえ当協会は新しい脚本を見出すため、脚本募集事業を行っております。

2023年度は第九回脚本募集を行いました。現在審査を行っており本年末には入選作品の決定を行います。表彰式は2025年6月の定時理事会を予定しております。今回の応募数は総数65本、内訳は歌舞伎部門25本、ミュージカル部門8本、現代劇部門23本、時代劇部門9本でした。

次に2013年度より「初級コース」「中級コース」「マスターコース」の3コースでスタートしました「脚本家養成講座」ですが、2023年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため新規の募集を中断していた関係で、「初級コース」の講座は休講しており、「中級コース」「マスターコース」の2コースでの開講となりました。

受講者数は、マスターコース 7名 中級コース 10名 計17名となります。

尚、初級コースは 2024 年度より再開いたしており、現在、「マスターコース」は第二土曜日、「初級コース」「中級コース」は第三土曜日に中央区の区民館を会場に開講しております。

また 2023 年度からマスターコースの講師が北村文典先生から堀越真先生に替わっております。

II 普及事業

(1) 半額鑑賞会

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会が共催している半額鑑賞会は低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

2023 年度は

東京地区 4 回 大阪地区 7 回 名古屋地区 3 回 福岡地区 12 回 合計 26 回 の事業を実施することができました。

東京地区	4 回	29,727 人	215,964,000 円
大阪地区	7 回	46,443 人	246,152,500 円
名古屋地区	3 回	1,755 人	10,013,000 円
福岡地区	12 回	22,311 人	162,706,500 円
合計	26 回	100,236 人	634,836,000 円

(税込、観劇料金×販売枚数、公演中止による減額は含まず)

また、2024 年 4 月時点、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

(2) 学生対象の演劇教室

観劇と組み合わせた演劇教室の開催。学生を対象とした若年層への演劇の普及を目的とする本事業につきまして 2023 年度は、東急シアターオーブ 11 月公演「天使にラブソングを」、1 月博多座主催の「ミュージカル ベートーヴェン」の 2 作品を行いました。

両公演とも初めて観劇する学生、生徒が多く、11 月のシアターオーブでは指揮者の塩田明弘さんが終演後、今、公演で使用している楽器を使いお芝居の楽しみ方等を解説。また 1 月の「ベートーヴェン」では、終演後客席で、プロデューサーの岡本義次さんがミュージカルの楽しみ方や見方を分かり易く解説していただきました。

参加者はシアターオーブ 124 名 博多座 100 名 となりました。

III. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、64 号、65 号を発行いたしました。

会報は当協会会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしております。

IV 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟 52 劇場で実施された一年を通じたボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の 17 の準会員劇場の主要事項を内容としている [Box Office Data Report] の翻訳、編集。

ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテイメント市場調査報告書」の調査、編集。

ぴあ株式会社との「ライブエンターテイメント市場調査報告書」は進めることが出来ましたが、ロンドン劇場協会の「Box Office Data Report」につきましては、2019 年版以降ロンドン劇場協会が今もって発行出来なく、事業展開を行うことが出来ませんでした。今後情報を取りながら、資料の分断をすることなく事業展開をいたします。

2023 年度事業報告の附属明細書

定款第 38 条第 1 項第 2 号に定める事業報告の附属明細書につきましては、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため本年度は作成しておりません。

以上